

■桜並木

四月に新入生達が入学してくる頃には満開になった桜並木は後形も無く、わずかに2本程、残っているようでした。
この丘がしっかりとしたマンションの街並みになるのは、これから10年かかる感じがしました。更にかつての桜並木が彩っていた風情のある街になるのは、もう10年かかる感じがしました。

フォト&エッセイ■高橋 誠
構成／増田 泰邦（39回生）

プロフィール■高橋 誠（たかはし まこと）

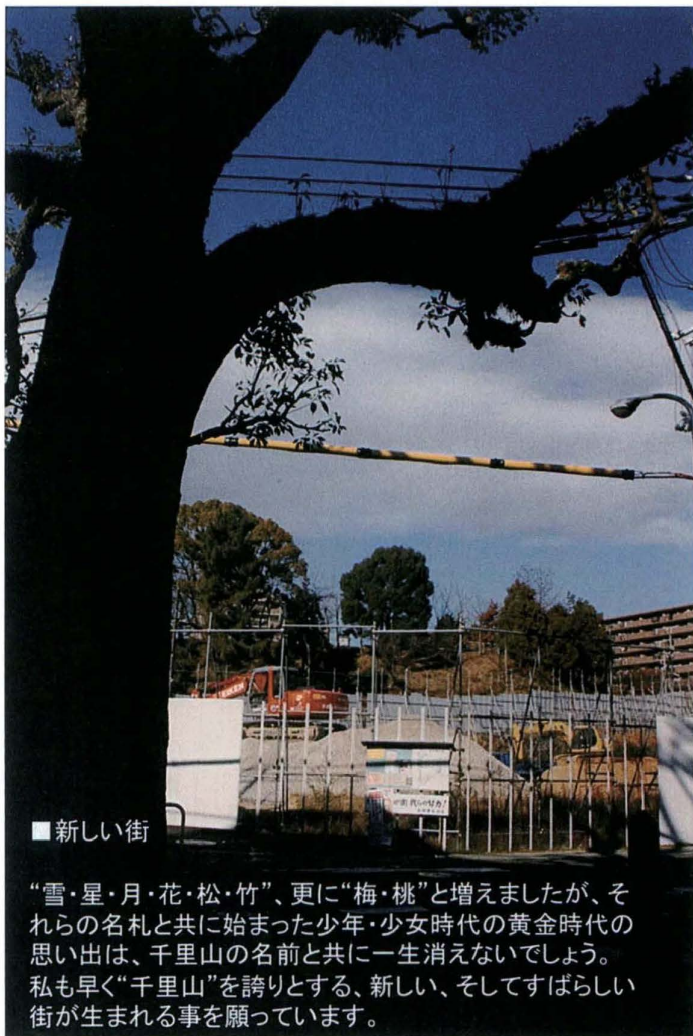
1965年に千二小に赴任、4松・5月・6月を担任、第39回生を送り出す。

その後、吹田市教育委員会、小学校校長を経て現在箕面市在住。世界各地の歴史史跡等を写真にとるなど、現在も活発に活動中。



■変わり行く千里山

かつて星が丘・霧が丘・虹ヶ丘、と団地の林立していたあたりは、小高い荒涼とした丘になっていて、ぼちぼちと今風の高層マンションが建っており、かつての風情は無くなっていました。



■新しい街

“雪・星・月・花・松・竹”、更に“梅・桃”と増えましたが、それらの名札と共に始まった少年・少女時代の黄金時代の思い出は、千里山の名前と共に一生消えないでしょう。私も早く“千里山”を誇りとする、新しい、そして素晴らしい街が生まれる事を願っています。

■1965年～1968年

この時の教え子達の知識の旺盛さは、素晴らしいものでした。その勢いに負けまいとして、私は受験勉強的な授業から脱して、生きた知識を与えようと、自分も必死で勉強し、そしてそれを授業でぶつけました。未消化な知識でしたが、みんなよくついて来てくれました。

私の現在の好奇心は、あの続きの感じがします。



【教え子の回想】

当時20代の若く気鋭の先生で、教科書を使わない、異なる視点を重視、など斬新な授業スタイルを実施されました。体育ではサッカーに加えラグビーも教えてもらいました。自分の勉学に対する好奇心が強くなったことを覚えています。ありがとうございました。 澤田 純(39回生)